

山海留学の教育力

現代社会の大きな課題

増え続ける不登校や引きこもりは、現代の教育が抱える大きな課題であり社会問題である。各種調査を見ると、そのきっかけは「無気力」「友人関係」「学業

変わる教育委員会

《第603回》

三島村は日本の保健室④

鹿児島県・三島村教育委員会
教育長 室之園晃徳



三島村の3番目の島「黒島」
うっそうたる森林の島

不振」「いじめ」「家庭環境」など様々だが、現代社会が抱える問題が複合的に絡み合い、原因・理由は千差万別だ。だからその背景にある問題を指摘することはできても、直接間接に絡み合った固いもつれはかなり強烈で、解決にはつながらない。今は年々増加しているこの問題を、ただ傍観するしかない状況が続いているだけの気がする。

山海留学で変わる

山海留學生の動機は様々だが、本村の場合、その9割は不登校傾向にあった子どもたちである。「都会や町の大きな学校では、集団に溶け込むことができずに伸び伸びと学校生活を送ることができない。でも自然豊かな村の小さな学校であれば、自分らしさを発揮して成長できるのではないか」そんな期待をもって留学して来ているが、実際、その期待に込めることができるのが山海留学であるということが実感している。村に留学してきた子どもたちが、どんどん元気になっていく姿を目の当たりにしているからだ。かつては学校に行きづらかったなどとは少しも感じさせない。子どもたちは、それぞれに合った環境さえ与えられれば、自分自身で育つ力を授かっているのだ。

一つ一つの小さな蕾たちは、個性豊かであるが故、一律にどんな環境でも育つわけではない。だからどうしても今の環境で蓄が開かないのであれば、思い切って環境を変えてみることもだ。刺激と変化に満ちた都会で育った子どもたちにとっては、コンビニも信号もない、「自然しかない」島は、逆に刺激的かもしれない。機械的な刺激に慣れきった子どもたちの五感センサーの感度が、大自然の新たな刺激によって上がり、感動する心や豊かな感受性が呼び覚まされる。もちろん自然環境だけではなく、人間環境も大切な要素である。教師と児童生徒、異年齢の子どもたち、地域の大人たち、高齢者、それぞれの関係が密接で優しく温かい。子どもの自律的な成長を促す要素が、地方にはいっぱい詰まっている。

「三島村は日本の保健室ですね」ある人がそう表現した。最初はピンと来なかったが、ちょっと頭をひねってから「なるほど」と合点がいった。少々大げさではあるが、言い得て妙かもしれない。ただし、そのような町や村は、日本の地方にたくさんあるに違いない。